

令和7年度

第4回 飯田市これからの
学校のあり方審議会

Agenda

5 協議議事

(1) 論点2

課題を共有するための課題
の明確化について

本日の審議について

- 本日の審議の目的及び委員の皆様へ意見交換をお願いすること
- 4つの論点と5つの視点の関係性

グループワークについて

- ワールド・カフェ方式でのグループワークの進め方について

学校現場における教育活動の実態

- 竜東学園(千代小学校)曾我 佳伸学園長(校長)からの報告

グループワーク

- 第1ラウンド
- 第2ラウンド

オンライン参加の委員から

- オンライン参加委員から自らの意見の発表

発表・共有

- グループ毎にワークの結果を発表、共有

本日の審議について

— これまでの審議経過の確認 —

これまでの審議の経過

- 第1回審議会(令和7年7月1日)
 - ・ 第2次答申に向けた議論の方向性を確認
 - ・ 第2次方針の基本的な考え方として、基本方針及び5つの視点を確認
- 第2回審議会(令和7年9月29日)
 - ・ 第2次答申・方針策定に向けた論点抽出のための個人ワーク及びグループワーク
- 第3回審議会(令和7年12月22日)
 - ・ 抽出された4つの論点を確認
 - 論点1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)
 - 論点2 課題を共有するための課題の明確化
 - 論点3 学園地域における協議・検討期間及び時期
 - 論点4 学校施設の形態と位置に関する考え方
 - ・ 論点1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)の確認

第2次方針の基本的な考え方 及び 第2次答申に向けた論点整理のためのグループワークの結果を踏まえた 第2次答申及び第2次方針のアウトラインと策定に向けた論点

グループワークのまとめ

- ①-1 学園構想を推進する観点からの検討
- ①-2 学園としての一体感
- ①-3 地域の危機意識
- ①-4 保護者等の意見を大事に
- ①-5 まちづくり委員会の主体性
- ①-6 検討組織の組成
- ①-7 こどもまんなかの徹底
- ②-1 学園地域への寄り添い
- ②-2 検討に必ず参画
- ②-3 最初から一緒に検討
- ②-4 課題、考え方や姿勢の共有
(再編ありきではない・地域に学校を残す)
- ②-5 検討しやすい環境整備(情報等提供)
- ③-1 こどもにとって「最適な学びの環境」の将来がイメージできない
- ③-2 どこまで、いつまでに検討するか
- ③-3 検討組織の委員をどう選出するか
- ③-4 世代間ギャップや地域間ギャップをどのように解消するか
- ③-5 多様な意見を集約することができるか不安
- ④-1 市及び市教委の立ち位置・姿勢の明示
- ④-2 市としての方針を提示
 - a 地域特性を踏まえた規模感
 - b どのような施設が良いか
 - c 規模感や施設面から見た検討優先順位
 - d スケジュール感
- ④-3 通学手段に関する不安

自由記述意見のまとめ

- ① 「こどもまんなか」を基本に据えて
- ② 「学校づくりは地域づくり」の精神
- ③ 市・市教委の寄り添う姿勢
- ④ 基本的な方針について議論を
- ⑤ 具体的な検討に入るために
- 優先順位を明確にする
- ⑥ 地域に学校を「残す」ための方策の検討を
- ⑦ 喫緊の課題としての「複式学級の解消」
- ⑧ 喫緊の課題としての「施設の老朽化」
- ⑨ 飯田学園構想を進めるための施設形態
- ⑩ 地域での検討のあり方

専門委員コメントのまとめ

- 「こどもまんなか」意識の共有
- 市教委の「対話型で共にやっていく」姿勢や立ち位置の明示
- 「いつまでに決めるか」を地域で定めるプロセスの大切さ
- あり方検討が「相互理解を深めるための手続き」であるという認識の共有
- これからどういう乗り物に乗っていくのかという時に重要な役割を果たすのは市
- 市が地域をどのように発展させていこうとしているのかを、学校再編という形で矮小化しないように、常に市長部局と協働を

学園地域の実情に即したボトムアップ型合意形成を進めるための重要な論点等

第2次答申・方針策定に向けた論点

1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)

- 今後、小学校及び中学校の配置や施設形態等のあり方を検討する際の「基本方針(あり方検討の進め方)」を審議し、第2次方針・第2次答申の骨格とする。
- 基本的な考え方：基本方針・視点1・視点3・視点4
- 具体的な論点
 - ① 目的
 - ② 枠組み及び協議検討方式並びに基本とする考え方
 - ③ 検討主体と関係団体や関係者
 - ④ 市及び市教委の立ち位置・姿勢

2 課題を共有するための課題の明確化

- 課題意識の高い学園地域が主体的に検討を開始し、相互理解を深めるための協議を促進する観点から、学校教育面から見る課題を明確にし、検討を進める必要がある学園とその順番を定める。
- 基本的な考え方：基本方針・視点2・視点3・視点5
- 具体的な論点
 - ① 小規模教育の位置付け
 - ② 共有する課題の明確化(協議・検討開始のポイント)
 - ③ 協議・検討を開始する学園
 - ④ 協議・検討の順番

3 学園地域における協議・検討期間及び時期

- 協議・検討の順番を踏まえつつ、学園地域における標準的なボトムアップ・対話方式での協議・検討期間やそれに基づく検討時期を定める。
- 基本的な考え方：基本方針・視点2・視点5
- 具体的な論点
 - ① 学園地域における協議・検討期間及び再編する場合の準備期間の標準形
 - ② ①及び論点2の協議・検討の順番を踏まえた学園毎の検討時期

4 学校施設の形態と位置に関する考え方

- 小中一貫教育を推進する観点から、児童生徒の教育環境を整備する責務を有する市教委として望ましい施設形態を審議し、学園地域における協議・検討の一助とする。
- 基本的な考え方：基本方針・視点1・視点2・視点3
- 具体的な論点
 - ① 小中一貫教育推進、教育行政の持続可能性向上の観点から見た望ましい施設形態
 - ② 学校施設の設置位置(場所)を検討する際の考え方

学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)要点

－ 4つの具体的な協議のポイントの要点まとめ －

学校のあり方を検討する目的

協議・検討の目的

先行きを見通すことが難しいこれからの時代に、**児童生徒が**、生涯にわたって主体的に、また、他者と協働しながら**生き抜いていける力の基礎**をこれまで以上にしっかりと、そして、**豊かに育てていくためのこどもの学びの環境を整備**することを目的として、学校のあり方検討を進める。

枠組み及び協議・検討方式並びに基本とする考え方

協議・検討の枠組み

学校のあり方を**協議・検討する枠組み**は「**学園**」とする。

協議・検討の方式

危機・課題意識が高い学園地域、施設の安全面で課題がある学園地域内の対話に基づく**ボトムアップ方式**とする。

大切にしている考え方

- ①「**こどもまんなか**」を根幹に置き、児童生徒のより良い教育環境とは何かを自分事として考える。
- ②**学校再編ありきではなく、学園内学校の配置などのあり方を協議・検討**する。

検討主体と関係団体や関係者

協議・検討の主体

「**学校づくりは地域づくり**」の精神に基づき、学園内での**協議・検討は、学園地域のまちづくり委員会等が主体**となり、協議・検討のための**対話型の組織を組成**して、**学園地域一丸**となって実施する。

大切にしている考え方

- ①**学校のあり方は、地域課題でもある点を共有**する。
- ②**児童生徒や保護者はもちろん、未就学児の保護者の意見も大切に**する。
- ③**関係者同士が相互理解を深めるための意見交換を進める**。

市及び市教委の立ち位置・姿勢

市教委の立ち位置・姿勢

「**学校づくりは地域づくり**」の精神に基づき、学園内での**地域が主体**となって組成する**対話型の検討組織に寄り添い、一丸**となって**協議・検討を進める**。

市長部局との連携

市長部局と教育委員会事務局が協働して、**地域の検討組織に寄り添い、相互理解を深めるための協議・検討を進める**。

本日の審議について

一 課題を共有するための課題の明確化に向けて、小規模教育の位置づけと課題の明確化 一

第2次答申・方針策定に向けた論点

1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)

- 今後、小学校及び中学校の配置や施設形態等のあり方を検討する際の「基本方針(あり方検討の進め方)」を審議し、第2次方針・第2次答申の骨格とする。
- 基本的な考え方：基本方針・視点1・視点3・視点4
- 具体的な論点
 - ① 目的
 - ② 枠組み及び協議検討方式並びに基本とする考え方
 - ③ 検討主体と関係団体や関係者
 - ④ 市及び市教委の立ち位置・姿勢

2 課題を共有するための課題の明確化

- 課題意識の高い学園地域が主体的に検討を開始し、相互理解を深めるための協議を促進する観点から、学校教育面から見る課題を明確にし、検討を進める必要がある学園とその順番を定める。
- 基本的な考え方：基本方針・視点2・視点3・視点5
- 具体的な論点
 - ① 小規模教育の位置付け
 - ② 共有する課題の明確化(協議・検討開始のポイント)
 - ③ 協議・検討を開始する学園
 - ④ 協議・検討の順番

3 学園地域における協議・検討期間及び時期

- 協議・検討の順番を踏まえつつ、学園地域における標準的なボトムアップ・対話方式での協議・検討期間やそれに基づく検討時期を定める。
- 基本的な考え方：基本方針・視点2・視点5
- 具体的な論点
 - ① 学園地域における協議・検討期間及び再編する場合の準備期間の標準形
 - ② ①及び論点2の協議・検討の順番を踏まえた学園毎の検討時期

4 学校施設の形態と位置に関する考え方

- 小中一貫教育を推進する観点から、児童生徒の教育環境を整備する責務を有する市教委として望ましい施設形態を審議し、学園地域における協議・検討の一助とする。
- 基本的な考え方：基本方針・視点1・視点2・視点3
- 具体的な論点
 - ① 小中一貫教育推進、教育行政の持続可能性向上の観点から見た望ましい施設形態
 - ② 学校施設の設置位置(場所)を検討する際の考え方

論点2 | 課題を共有するための課題の明確化

- 課題意識の高い学園地域が主体的に検討を開始し、相互理解を深めるための協議を促進する観点から、学校教育面から見る課題を明確にし、検討を進める必要がある学園とその順番を定める。
- 具体的な協議のポイント



ポイント① | 小規模教育の位置付け



ポイント② | 共有する課題の明確化
(協議・検討開始のポイント)



ポイント③ | 協議・検討を開始する学園



ポイント④ | 協議・検討の順番



本日の審議について

— 本日の審議の目的及び委員の皆様にご意見交換をお願いすること —

本日の審議会にて委員の皆様にご意見交換をお願いすること…

- ✓飯田市の現状として、小学校においては、19校中13校が小規模学校(文科省基準)となっている。
- ✓近年の動きとして、文部科学省も少人数での学びの環境を大切にしていこうとする動きがある。
- ✓こうしたことを念頭に置きつつ、急激な少子化、家族の形の変化、地域コミュニティの変化といった学校教育を取り巻く環境の変化、国レベルでの教育のあり方や教員不足など学校教育そのものの変化を捉えた上で、「こどもまんなか＝児童生徒の学び」と「教育活動の充実＝学校運営」の2つの視点から、小規模教育の意義を確認しその位置づけについて意見交換をいただく。
- ✓その上で、「児童生徒の学び」の観点、「学校運営」の観点から、小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態かについて意見交換をいただく。

本日の審議の目的

課題意識の高い学園や施設の安全面で課題がある学園のボトムアップ・対話方式での協議・検討を基本としながらも、学園内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただくよう働きかけを行う際の学校教育面から見る課題を明確にし、検討を進める必要がある学園とその順番を定めることにつなげる。

4つの論点と5つの視点の関係性

— 論点を審議する際に念頭に置き、忘れてはいけない視点を確認するために —

	視点1	視点2	視点3	視点4	視点5
	児童生徒の教育環境の充実を最優先に考える。ただし、学校は地域の将来の担い手や支え手となる人を育てる機能を有していることにも配慮する。	個別の学校の状況だけでなく、学園内の学校全体の状況を考慮する。	保護者や地域の課題意識の高い学園や、安全面で課題があると考えられる学園を対象とする。	具体的なあり方の検討では、保護者、学校教職員、住民の代表者、教育委員会事務局の職員で構成する検討組織を組成し協議を重ねて方向性を定めていく。	教育移住の促進等の児童生徒数の維持・増加に向けた取組を地域をあげて推進することが見込める学園は、その取組の効果を考慮する。
論点1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)	<ul style="list-style-type: none"> ①目的 ②枠組み、協議・検討方式、大切にしている考え方 ③検討主体、関係者 ④市及び市教委の姿勢 		<ul style="list-style-type: none"> ①目的 ②枠組み、協議・検討方式、大切にしている考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ①目的 ③検討主体、関係者 ④市及び市教委の姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ①目的
論点2 課題を共有するための課題の明確化		<ul style="list-style-type: none"> ①小規模教育の位置付け ②共有する課題の明確化 ③協議・検討を開始する学園 ④協議・検討の順番 	<ul style="list-style-type: none"> ①小規模教育の位置付け ②共有する課題の明確化 ③協議・検討を開始する学園 ④協議・検討の順番 		<ul style="list-style-type: none"> ①小規模教育の位置付け ②共有する課題の明確化 ③協議・検討を開始する学園 ④協議・検討の順番
論点3 学園地域における協議・検討期間及び時期	<ul style="list-style-type: none"> ②学園毎の検討時期 	<ul style="list-style-type: none"> ①標準的協議・検討期間 ②学園毎の検討時期 	<ul style="list-style-type: none"> ①標準的協議・検討期間 ②学園毎の検討時期 		<ul style="list-style-type: none"> ②学園毎の検討時期
論点4 学校施設の形態と位置に関する考え方	<ul style="list-style-type: none"> ①望ましい施設形態 ②学校施設の設置位置 	<ul style="list-style-type: none"> ①望ましい施設形態 ②学校施設の設置位置 	<ul style="list-style-type: none"> ②学校施設の設置位置 		

本日の審議について

本日の審議の進め方

- ✓ 急激な少子化、家族の形の変化、地域コミュニティの変化といった学校教育を取り巻く環境の変化、国レベルでの教育のあり方や教員不足など学校教育そのものの変化を捉えた上で、「こどもまんなか＝児童生徒の学び」と「教育活動の充実＝学校運営」の2つの視点から、小規模教育の意義を確認しその位置づけについて意見交換をいただく。
- ✓ その上で、「児童生徒の学び」の観点、「学校運営」の観点から、小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態かについて意見交換をいただく。



学校現場
からの報告

曾我竜東学園長
からの報告



グループ
ワーク

ワールド・カフェ方式
でワーク



Online参加委員
の意見を聞く

グループワーク
参加に代えて



ワーク結果の
発表・共有

対話結果及び気づきの
シェア

グループワークについて

ー ワールド・カフェ方式でのグループワークの進め方について ー

今回のグループワークは…

委員一人一人が自らの意見を言いやすく、且つ、
議論の方向性を皆が共有できる、ワールド・カフェ方式で実施します。

●ワールド・カフェ方式とは…

「知識や知恵は、人々がオープンに語り合うカフェのようなリラックスした空間で生まれる」という考えに基づき、メンバーを入れ替えながら対話することで、会場全体の知恵をネットワークのようにつなぎ合わせていく対話方式のことです。

●この方式の特徴は…

- ・ 正解を出すことよりも、多様な視点や気づきを引き出すことを重視すること
- ・ 立場や役職を越えた自由な意見交換が可能なこと
- ・ 対話を重ねることで、意見が「深化」・「統合」されていくこと

●基本ルール

- ・ 相手の意見を否定せず、まず受け止める
- ・ 自分の経験や考えを率直に話す
- ・ 気づいたことは見える形で記録する
- ・ テーブルを移動することで、意見をつなぎ、広げる

グループワークについて

－ ワールド・カフェ方式でのグループワークの進め方について －

●進め方

① 第1ラウンド

- ・いま、お座りの席で、テーマ・問いについて、テーブルごとに話し合いをします。
- ・テーブルの上に置かれた模造紙に、事前ワークでお考えいただいた意見を書き出した上で、意見交換をし…同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員の共感型でグループとしての問いに対する答えをまとめていただきます。

② 席の移動

- ・第2ラウンドに移る前に、ホストを1名を残して、他のメンバーは別のテーブルに移動します。
- ・新しいメンバーが揃ったらホストが第1ラウンドの対話内容を説明し共有します。

③ 第2ラウンド

- ・移動した先のテーブルでの第1ラウンドを踏まえつつ、新たなテーマ・問いについて、テーブルごとに話し合いを始めます。
- ・テーブルの上に置かれた模造紙に、事前ワークでお考えいただいた意見を書き出した上で、意見交換をし…同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員の共感型でグループとしての問いに対する答えをまとめていただきます。

④ 発表・共有

- ・ホストが、各グループから「対話の結果＝問いへの回答」及び「対話の中で見つかった気づき」を2分でシェアし共通点と相違点を全員で確認します。

グループワークについて

－ ワールド・カフェ方式でのグループワークの進め方について －

●席の移動について

第1ラウンド

グループA

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
後藤 正幸 委員	原 雅彦 委員
	松岡 香代子 委員
	吉野 久美 委員

グループB

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
三浦 弥生 委員	玉置 洋一 委員
	飯島 政樹 委員
	勝野 久美恵 委員

グループC

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
山浦 貞一 委員	會川 百樹 委員
	村山 雅也 委員
	下沢 晃世 委員
	伊藤 桂子 委員



第2ラウンド

グループA

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
後藤 正幸 委員	會川 百樹 委員
	飯島 政樹 委員
	下沢 晃世 委員

グループB

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
三浦 弥生 委員	原 雅彦 委員
	松岡 香代子 委員
	伊藤 桂子 委員

グループC

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
山浦 貞一 委員	玉置 洋一 委員
	吉野 久美 委員
	村山 雅也 委員
	勝野 久美恵 委員

学校現場 からの報告

学校現場における教育活動の実態について 竜東学園 曾我 佳伸学園長からの報告

報告時間は30分です。

- 報告をお聞きいただく中で、新たに認識した「学校の規模が小規模であることの良さと課題」があれば、個人ワークシートに追記してください。
- 「小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か」について、改めてお考えいただき、個人ワークシートに追記等してください。



学校現場における教育活動の実態

— 竜東学園(千代小学校)曾我 佳伸学園長(校長)からの報告 —

Memo

グループワーク



第1ラウンド

～ 第1ラウンドの問い ～

学校の規模が小規模であることの良さと
課題を整理すると何が見えてくるか？

話し合いの時間は30分です。

グループワーク 第1ラウンド

の時間は **20時25分** までです。

- 提供データ等を参考に、「小規模であることの強み(小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か)」と「小規模であるが故の弱み(教育活動・学校運営において生じる課題)」を自由に書き出して共有した上で、小規模学校での学びとして大切にすべきことや解決しなくてはいけない課題について意見交換をしてください。
- まず、事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください(自分の書きやすい向きで書いてください)。
- その上で、各々から考え方を含めて発表し合い、同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員で「良さ」と「課題」を共有し、問いに対する回答をまとめてください。

グループワーク 席の移動

第2ラウンドメンバー

グループ A

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
後藤 正幸 委員	會川 百樹 委員
	飯島 政樹 委員
	下沢 晃世 委員

グループ B

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
三浦 弥生 委員	原 雅彦 委員
	松岡 香代子 委員
	伊藤 桂子 委員

グループ C

Host(残留する委員)	Tourist(移動する委員)
山浦 貞一 委員	玉置 洋一 委員
	吉野 久美 委員
	村山 雅也 委員
	勝野 久美恵 委員

移動及び第1ラウンドの

振り返りの時間は **3分** です。

移動及び第1ラウンドの振り返り

の時間は **20時28分** までです。

- 第2ラウンドに移る前に、ホストを1名を残して、他のメンバーは別のテーブルに移動します。
- 新しいメンバーが揃ったら、ホストが第1ラウンドの対話内容を説明し共有してください。

グループワーク 第2ラウンド

～ 第2ラウンドの問い ～

小規模教育の良さが得られなくなる状態
又は 課題を補いきれなくなる状態
とはどのような状態か？

話し合いの時間は30分です。

グループワーク 第2ラウンド

の時間は **20時58分** までです。

- 第1ラウンドでの小規模学校の良さと課題を踏まえ、小規模学校の良さが得られなくなる状態又は課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態(児童生徒数や教職員体制)か、小規模であるが故に、教育の質や学校運営に大きな影響が出始めるのはどのような状態かについて意見交換をしてください。
- 事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください。
- 各々から考え方を含めて発表し合い、同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員で「小規模の良さが得られなくなる状態」又は「課題を補いきれなくなる状態」について意見交換をし、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。

オンライン参加の  委員の意見を聞く

オンライン参加の委員の第1ラウンド、第2ラウンド
それぞれの「問い」に対する回答を聞く

委員ひとり 3分 で意見を発表してください。

グループワーク 発表・共有

発表・共有

発表時間は 1グループ2分です。

- 各グループのホストから「対話の結果」及び「対話の中で見つかった気づき」をシェアし、自らのグループや自分の考えとの共通点や相違点を確認します。

個人ワークシートの提出のお願い

ワールド・カフェ方式によるグループワークは以上で終了です。
沢山のご意見をいただき、ありがとうございました。大変、お疲れさ
までした。

意見集約に活用するため、2種類の事前ワークシートのご提出をお願い
します。

それぞれのシートのご芳名欄にお名前をご記入いただき、机の上に置いてお帰りください。

ご協力をお願いいたします。